

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300397		
法人名	社会福祉法人 南有会		
事業所名	グループホーム しおさい		
所在地	長崎県島原市中安德町1769番地3		
自己評価作成日	令和4年10月9日	評価結果市町村受理日	令和4年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>近くには、平成新山と眉山が大きくそびえ立ち、東を見渡すと有明海が広がっており、景色が良い、環境に恵まれた立地に建てられています。 季節ごとのお花見や外出を積極的に行っております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの窓からは平成新山や有明海が見渡せ、風光明媚な場所に立地している。ホームの広いフロアには入居者と一緒に行った季節を感じさせる貼り絵やカレンダーを掲示し、見当識に配慮している。フロア及び居室は毎朝清掃を行い、次亜塩素水を用いて、手すり・ドアノブなどの要所の拭き掃除を行い、感染予防に留意している。コロナ禍の為、外出を自粛しているが、人が密集しないタイミングで、桜、コスモスなどの季節の花見に行ったり、ドライブをするなど外出支援に努めている。好天時にはホームの庭先で入居者が日光浴をしたり、おやつを食べるなど気分転換を図っている。職員会議の際は活発な意見交換を行っており、職員より出された意見の事例として、ベットの高さが低く、介護に支障が生じているとの意見により、多機能付き(リクライニング)ベットを購入したり、車イスにクッションを敷いたり、手を挟まないようカバーを取り付けるなど職員意見を運営に反映し、職員が安全に業務に従事できるよう取り組んでいる。職員間のコミュニケーションが円滑にできているチームワークの良いホームで、今後の更なる入居者支援に期待が持てる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフが見やすく、目につくところに貼っている。 利用者一人、一人の役割を考えて、毎日、業務に取り組んでいる。	開設当初からの理念である「生涯現役」は、職員会議の際に確認している。入居者の残存能力を活かし、できる方には洗濯物たたみを行ってもらったり、職員と一緒に食事の後片付けを行う等、入居者に役割を持ってもらい、生涯現役で過ごせるよう支援している。	開設当初からの理念であり、ホームの理念が業務と結びついていることが窺える。今後、より理念を浸透させるためにも、理念の実践状況を振り返ったり、理念研修を行うなど、理念を定着させ継続して理念に基づいた行動が取れるよう取り組むことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスのため地域との交流はできていない。	コロナ禍前は、地域の保育所の来訪や中学校体験学習及び高校生職場体験を受け入れていた。敬老会には、家族や地域住民の参加があり交流していた。最近では新型コロナ感染状況を踏まえ、隣接のデイサービス事業所の利用者と一緒に室内での運動会に参加したり、餅つきを行うなど楽しまれている。施設長はコロナ禍が収束したら地域との交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方に理解していただく為、認知症の人の言葉や行動等の説明をし、協力をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過のため、文章による運営推進会議を実施している。	運営推進会議は2か月毎に開催し、民生委員・島原市広域圏組合職員・家族代表・施設長・職員が参加している。ホームより入居者の日々の活動状況等を各委員へ報告し、各委員より出された意見や要望を運営に反映させている。感染状況に応じて運営推進会議は書面会議に変更して実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時、市の担当職員へ情報をお伝えし、助言をもらっている。	行政担当部局とは介護保険関係や生活保護、コロナ対応等、適宜、連絡や相談のほか施設長が直接窓口に出向くなどして関係を築いている。新型コロナ感染症への対策として、島原市福祉課より、マスク・ガウン・フェースシールド・ビニール手袋の支給があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束の研修を行っている。又、時間がある時に事業所内で会議をしており、ケアにも取り組んでいる。	2か月毎に身体拘束適正化委員会を行っている。身体拘束の指針を作成し、職員に周知を図っている。職員は令和3年10月14日に身体拘束廃止の取り組みについてリモートによる外部研修会に参加した。虐待防止も含め身体拘束に関する内部の勉強会も定期的に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止の研修に参加している。又、時間がある時に事業所内でお話しをしており、ケアにも取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について、研修を行い、利用者が必要時、支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や利用契約書の説明を十分に行い、改定の際も理解して、納得されるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や広報等で家族からの意見や要望を聞くようにしている。又、利用者からは、毎日の関わりの中で、聞くようにしている。	ホームに訪れる際は、体温を計り、手指消毒を実施した上で面会を行うなど、感染予防に努めている。家族が利用料支払いに訪れる際や、電話にて意見・要望を聞き取り、家族の意向等を運営に反映している。定期的に広報誌を発行し、入居者の行事参加の様子を写真にて載せたり、家族へコメントを載せて配布しており、家族の安心と喜びになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。	毎年、チェックリストを用いた職員の人事考課があり、その際に職員と法人経営層との面談で意見交換ができています。職員会議の際は活発な意見交換を行っており、職員より出された意見の事例として、ベットの高さが低く、介護に支障が生じているとの意見により、多機能付き(リクライニング)ベットを購入したり、車イスにクッションを敷いたり、手を挟まないようカバーを取り付けるなど職員意見を運営に反映し、職員が安全に業務に従事できるよう取り組んでいる。	今年度よりハラスメント対策の強化が求められており、ハラスメントマニュアルや相談窓口の整備、研修の実施など具体的に取り組み、より職員意見の反映に繋がる職場環境の整備に取り組むことが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の頑張りに応じて、細かい査定を行い、報酬にて評価している。 又、様々なスタッフ研修も定期で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議やスタッフ研修において、スタッフ一人一人の力量に応じて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に入会し、情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族及び本人より情報提供をして頂き、アセスメント、ケアプランを基に、安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族及び本人より情報提供をして頂き、アセスメント、ケアプランを基に、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族及び本人より情報提供をして頂き、アセスメント、ケアプランを基に、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を見つけ出し、洗濯物や掃除機掛け、食器洗い等、施設のお手伝いを行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時間を大切に、本人の要望があれば、ご家族と相談し、1時帰宅を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し、ご家族等を含めて支援を行っている。	コロナ禍以前は、入居者の友人が面会に訪れたり、墓参りや神社へ参拝するなどその方の馴染みの関係を継続できるよう支援していた。現在は、コロナ禍により窓越しの面会を行ったり、家族からの電話は取り継いだり、誕生会や敬老会には、プレゼントと一緒に家族の手紙や写真を本人に渡すなど、関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格を把握し、利用者同士が関わりを持てるよう、レクリエーションの参加、会話を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム退所後もご家族等から連絡や相談あるときは対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が施設内での暮らしの中で、希望や意向を把握し、できるだけ行えるよう支援している。	職員は入居者の表情や仕草を見てその方の思いを汲み取るよう努めている。帰宅願望のある方には、話をして不安や焦りを緩和したり、散歩をしたり、家の近くに車で行くなど本人の気分転換を図るよう努めている。難聴の方は、必要に応じて筆談を用いて思いや意向を確認し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から情報提供して頂いたアセスメントを把握し、グループホームの生活の中でも会話等で、これまでの事を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や一人一人と関わっていく中で、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を必要な時期に開き、話し合いを行い、ケアプランを作成している。変更が必要な場合は、都度、変更している。	担当職員がケース記録にて日頃の入居者の状態を把握してケアプランの原案を作成している。月1回のモニタリングを通じて話し合い、ケアマネジャーが入居者の現状に即したケアプランを作成している。ケアプランの内容は家族との面会時や電話にて説明して、同意を得ている。ケアプランは長期で1年、変更が必要な場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや職員会議で情報共有し、必要であればケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の思いを大切に、施設内のサービスだけではなく、施設外のインフォーマルなサービス(お花見や地域交流等)にも積極的に参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者に必要な地域資源を各関係機関、スタッフ同士の情報交換により把握している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望の病院を受診し、病院との連携も行っている。	かかりつけ医への受診には職員が同行し、遠方の医療機関を受診する場合は家族にも協力を求めている。円滑に受診できるよう、職員がケース記録の要点を持参している。入居者に体調変化があった場合は、家族へ電話連絡し、医療と連携できるよう配慮している。服薬管理を徹底し、服薬前は職員が3段階で確認しており、誤薬が無いよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に行っている医療連携時において利用者の、いつもと違う、症状や行動等を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が利用している病院等と連絡を取り合い、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族には、重度化やターミナルについてお話しをし、本人や家族の意向を踏まえて、納得できる支援を行っている。	入居の際に家族及び入居者へ看取りの説明をしている。重度化に伴い入居者・家族・医師・看護師・職員と話し合い、ホームでできる事を家族へ説明し、本人が食事が摂れなくなった場合は医師の判断により入院先へ移行している。現在は看取りを行っていないが、看取り指針を整備しており、今後、医師との調整等、条件が整えば看取りを行う意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し研修や訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成し研修や訓練を行っている。 地域交流や研修を踏まえて、協力を依頼している。	年2回、避難訓練を実施している。昨年5月には市が主催する、地震後に溶岩ドーム崩落を想定した初期行動避難訓練に職員及び入居者が参加した。実際に車で避難移動して避難経路を確認している。備蓄は備蓄品一覧表を作成して管理している。	ホームでの避難訓練について、現在、昼間想定のみを実施しているため、今後、夜間想定も計画し実施することを期待する。また、現段階は経過措置ではあるものの、今後、BCP(業務継続計画)の策定を視野に入れた取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーや尊厳の研修を行い、一人一人の性格を把握し、声掛け、ケアを行っている。	入居の際に入居者の個人情報やプライバシーについて契約書にて家族へ説明している。入居者の呼称は、さん付けで苗字を呼び、職員は尊厳を損ねない言葉掛けや対応を心掛けている。パットやオムツなどは、クローゼットや棚に目隠しのカーテンを作り収納し、プライバシーを損ねないよう配慮している。	広報誌などに載せる入居者の写真に関し、家族より口頭で同意を得ているが、今後、書面でも同意を残しておくことが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、思いや希望の問いかけ、自己決定できるような声掛け、ケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を大切にし、できるだけ利用者を優先し、希望を把握して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族が必要と思われる道具は自由に持って来ることができ、使用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握し、栄養状態等を考えて提供している。又、食事準備や片づけ等はできる方には手伝ってもらっている。	食事の後片付けは、入居者の残存能力を活かし職員と一緒にやっている。食事は、同じ敷地のデイサービス事業所で調理しており、ホームで入居者の嚥下状態に応じて、刻みやトロミ食を提供している。行事食として、誕生会にはケーキ・赤飯・茶碗むし、敬老会には手作りお重弁当、1日・15日には赤飯を炊いて提供するなど入居者の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の利用者の栄養、水分摂取状況は、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要な口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔、尿便意を把握し、必要なケアを行っている。	入居者のケース記録に排泄パターンを記録し、入居者個別に誘導を行い、トイレで排泄できるよう取り組んでいる。夜間は時間を見てポータブルトイレへ移乗介助し、排泄を促すと共になるべく安眠をしてもらうよう配慮している。失禁があった入居者には職員が小声でトイレや居室に誘導し、清拭を行い羞恥心に配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、運動量を把握し、工夫をしている。どうしても便秘の方は下剤で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	火・木・土の週3日入浴日、入浴時間を決めて行っている。要望等あれば個別対応可能。	週3回の午前中の入浴を基本として支援している。入浴が好きな方には、職員が入居者の話を聞きながらゆっくりと入浴を楽しめるよう配慮している。シャンプーや石けんは入居者の好みの物を使用できる。皮膚疾患のある方は、市販又は医療機関より処方された保湿クリームでスキンケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が好きな時にお部屋で眠る事ができ、眠そうな利用者さんを見たら、声掛けし、お部屋へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の、お薬説明書を個人ファイルに添付して、把握している。 又、常に、顔色や様子を観察しており、症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中で、出来る事や役割を探しだし、それを行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春、秋と天候が良い時は可能な限り外出を行っている。 個人の要望にもできるだけ、こたえられるよう心掛けている。	コロナ禍の為、外出は自粛しているが、桜、コスモスなどの季節の花見は人が密にならない時間帯を見計らって見学に行ったり、ドライブをして外出支援に努めている。天候の良い日は、ホーム前の庭先の駐車場で日光浴をしたり、おやつを食べて気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に応じたお金を持って頂き、買い物時お金の支払いや、購入した物品の金額を伝えたり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も好きな時にかける事ができ、手紙も好きな時に出す事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所には、みなさんが好まれる、季節の飾りをしており、その時に合わせた温度調整もこまめに行っている。	ホームは、窓から平成新山や有明海が見渡せ、風光明媚な場所にある。広いフロアには入居者と一緒に制作した季節を感じさせる貼り絵やカレンダーを掲示し、見当識に配慮している。フロア及び居室は毎朝清掃を行い、次亜塩素水を用いて、手すり・ドアノブなどの要所の拭き掃除を行い、感染予防に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は、好きな時にお部屋に戻る事ができる。仲のよい利用者は把握しており、座席の配置や誘導も工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの物等、自由に自宅から持って来られ、タンスやクローゼットに収納しできるだけ、整理されている。	居室の入り口には手作りの表札を掛け、入居者の見当識に配慮している。避難訓練の際は入居者情報が分かるホルダーを掛けてあり、入居者の避難状況を確認できるよう工夫している。入居の際、本人の髭剃り・櫛・洋服・帽子などの手回り品を持参してもらうよう家族へ促し、居室のクローゼットに整理し収納している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来る事、わかる事を把握しており、必要に応じて、見守り、声掛け、誘導を行い、安全な生活を支援している。		